

かながわ経済新聞〔ビズログ〕

# KANAKKEI

県内ビジネス情報イッキ読み!

## Big Log

※本誌全てのコンテンツの無断転載・複写・転用を禁止いたします。

2020 9月号  
VOL.081

（発行）KANAKKEI

かながわ経済新聞  
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3  
相模原商工会館 本館 1F  
（制作）神奈川新聞社・DNAデザイン

税務・会計・経営支援  
会社成長の専門家  
りんくグループ  
042-730-7891  
www.link-tax.com  
もようどいりんく

「人財」でお困りなら  
株式会社  
ミヨシ・ロジスティックス  
042-779-6619 | <http://miyoshi-log.co.jp/>

### アウトソーシング(外部委託)活用誌

#### 第9回 サービス品質と海外アウトソーシング

今回はアウトソーシングにおける注意点である「サービスの品質」と「海外における人件費の高騰」について話をしていきます。

まず「サービスの品質」についてですが、アウトソーシングの導入では業務品質が下がってしまうというリスクが存在します。

リスクを防ぐためにも、依頼側は受託企業に「業務仕様書の作成」や「報告書」「定期ミーティング」などを通じて、情報を共有してもらい、必要があります。

また、一定の契約更新のタイミングを設け、サービス品質や体制を定期的に見直すことがとても重要です。怠ってしまうとその後、品質や生産の低下など、実にさまざまな不具合が生じる場合があります。定期的に受託企業側との情報交換は不可欠です。

次に「海外における人件費の高騰」についてです。これは、海外にアウトソーシングを行う場合の注意点です。アウトソーシングの最大のメリットはコスト削減です。海外、

特に新興国における人件費は、日本と比べものにならない位低いといえます。そのため、例えばIT分野ではオフショア・アウトソーシングが年々増加しており、今や海外エンジニアを使った開発が主流となってきました。

とはいえ、日本語対応レベルや技術力の有無により、人件費が変動しやすいデメリットがあります。

また、受託企業が属する国の政策や情勢、為替相場、賃金、労働条件をめぐるスライキといったカントリーリスクにより、思わぬ損失をこうむったり人件費の高騰が発生する事象も想定されます。

そのため、海外へのアウトソーシングを実施する場合は、その国のカントリーリスクだけでなく、現地法人をコントロールできる運用体制の確立などが重要となり、これらのことを慎重に検討して進めていくべきです。

(ミヨシ・ロジスティックス代表取締役/近未来技術研究会会長)



吉田英訓の

着眼大局 着手小局  
～人と企業～

かながわ経済新聞

2020. 9月号

吉田英訓の

連載記事が掲載されました。